

休 憩 午後 0時00分

再 開 午後 1時00分

議長（村松 積） 再開します。

午前中に引き続き一般質問を行います。

金 田 憲 治

議長（村松 積） 3番、金田憲治君、質問を許します。登壇願います。

3番（金田 憲治） 3番、金田憲治です。

先に通告してあります3点について、質問をいたします。

1番目の自主財源の確保対策ですが、平成20年度一般会計予算で全体に占める比率は28.5%で、地方交付税などを依存財源に頼らざるを得ない構成となっております。自主財源をいかに増やすかが課題となっております。その対策の1つとして、ふるさと納税の導入が必要であるとの観点で、村の取り組みについて質問をすることといたしました。今回条例案として提出されておりますので、実効が上がる取り組みをしていただくことを申し上げ、質問は省略いたします。

次に、河川などの災害対策についてですが、最近、暖冬、冷夏、猛暑、集中豪雨など、異常気象、これ気象庁では一世代30年間に一度経験をするかしないかと、そういうような基準によるらしいですが、そういうようなニュースを頻繁に目にします。

2007年の昨年は、台風4号による一日の降雨量が232ミリの豪雨により、大きな被害を受け、8月には多治見市や熊谷市で40.9度の最高気温と74年ぶりに記録が塗り替えられるなど、最近で、アメリカで自然の驚異を体験する機会が多くなってまいりました。その原因として地球温暖化の影響が大きいとしているとの考えもあり、「今後もその傾向が継続する可能性が高い」と、公的機関でも言われているところです。

雨で言えば、私も自動車を運転していて、局所的でしかもワイパーを動かしても見えないような豪雨に遭うことが多くなったように感じておるところでございます。一方、道路の舗装化や水路の整備などにより、一気に終端に集中的に雨量が集まり、河川や井水の水位が危険領域に達したりオーバーするケースも出てきております。

今後も「異常気象の頻度が一層増加する可能性が高い」との見解もある中で、人家や農耕地を災害から守る観点で、河川や井水の構造や排水方法などを見直し、計画的に改修していくことが課題と考えますが、村長の見解をお聞きいたします。

次に、美しい魅力ある村づくりについて質問いたします。

伊藤村長は、全国の自治体が課題としている少子化対策について、本年1月に日本経済新聞社主催の子育て支援大賞に自治体として唯一選ばれたのを皮切りに、今月の父の日のベストファーザー賞と誠に輝いた賞を立て続けに受賞されましたことは、村として大変誇りであります。

これらの賞は、少子化対策に大きな実績を打ち立てられたところに、各自治体に大きなヒントを与え、健全財政を保ちながら少子化対策において、「日本一の村長さん」といっても過言ではないと考えております。

その結果として、現在人口が増えているところですが、この人たちの多くの方々が住み続けたい、または永住したいという村づくりが課題であろうかと思えます。

ここでユニークなまちづくりに取り組み、現在では観光客も多く訪れる小布施町の事例を申し上げますと、北斎館を中心に史跡を生かした町の修景事業を、町長と一人の設計士がスクラムを組み、それにかかわる関係者や町民に理解を得て、長年にわたり取り組んでこられてきている結果でございます。

幸いにも、本村は、下條氏という武将としても、また文化人としても優れた先達が、かけがえのない有形無形の足音を残されております。この資産を生かした景観形成はもちろん、新たな景観の創造も含め、孫やひ孫、さらに未来に向け魅力ある村づくりに取り組まれたらどうか、村長のご見解をお伺いいたします。

以上でございます。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 金田議員の質問にお答えをいたします。

第1で異常気象に対応した河川改修などの取り組みについてということでございます。

これは私ども当然河川改修というと、当然1級河川、2級河川等があるわけでございます。1級河川の白又川、それから牛ヶ爪川、森沢川、南の沢川、これは1級河川ということでございまして、県の管理、すべて管理でございます。このことについては、県も本当

に金のない中でございますけれども、私たちの要望をよく聞いていただいて、牛ヶ爪の上流には1億近い堰堤を作っていただきました。非常にユニークな堰堤でございます、真ん中をポールが立って、ポールというか支柱が立っておって、流木なんかそこに引っかかるようになっておる。延長相当長い堰堤も作っていただいたわけでございます。

南の沢の上流には、今県でもいろいろ問題になっておる穴あきダム、あれが作っておっていただいて、下流に対しての万全な体制をとっておっていただきます。

それからその沿線にある住宅、生命、財産に及ぼすことの住宅については、それべくの恒久対策といっていいほどのものを造っておっていただけるわけございまして、そのことに感謝しておるわけでございます。

その他の沢につきましても、私どもは相当な対応をしておるわけでございます。

今議員ご指摘のように、異常気象、特に局地的集中豪雨というのがあるわけございませぬけれども、これは本当に局地というか、瞬時に局地的に降るということでございまして、これは河川も大事ですけれども、治山が一番大事でございます。新潟のがま原沢、私は現地に行ってまいりました。大変なことございまして、全然下の水は何にもなかったわけでございますけれども、堰堤というか山の崩落がありまして、それが一度に土石流として流れてきて、大きな被害も出たところでございます。

それともう1つ、今の中国四川省でもそうでございますけれども、今、地滑りによって大きな湖が出ておるわけございまして、それがいつ決壊するか分からないということで、今、大騒ぎしておる、対応しておるところでございます。

下條村も、過去には大きな水害がございました。私の覚えておるところでは、特に牛ヶ爪が大変ございましたけれども、今上流には大きな堰堤ができ、そしてまた治山も相当やっておるところでございます。山が崩れて、そして湖、湖というかダムができ、それが一度に立木と一緒に来るとというのが、この急傾斜地また傾斜地の河川の特徴でございます、いくら堰堤を高くしても、そういう状態になれば、土石が来れば河床は上がるわけでございます。そしてそれにまた立木なんか遮ると大事故になるわけございまして、特に最近では岡谷にありました。これも私も現地を見ました。現地まで行かなかったんですけども。

あんな水がちょろちょろしか流れていないところで、やはり奥地で山が、集中豪雨のた

めに山が崩れ、そしてそれが土石流となって流木となってきて、大きな災害が起きたわけ
でございますので、治山治水ということもありますけれども、治水を含めて、治山を含め
て総合的にやらなければならないということでございますけれども、具体的に言いますと
議員も指摘していただきましたけれども、最近の例では昭和58年、58災と申しますけ
れども、その時に180何ミリが出て、そして災害が当時の金で5～6億出たのを私議員
やっております覚えております。大変なことでございまして、村内のそれぞれの道路、
河川が大きな被害を受けて、復旧に1年くらいかかったということでございます。村内に
は、もうよそからの業者がばんばん入りまして、大変な被害を受けたわけでございます。

19年には、231ミリから232ミリ降りました。この被害が何と1億3,000万
円でございます、河川でも特に大きな被害は起きなかったのかなということを感じてお
るわけございまして、これを比べてみても国・県の配慮、それから村としても相当皆様
方も含めて一生懸命やっておる状況かなと思っております。

これはいつ何時どういう形で出てくるか分かりませんので、常にまた河川の見回り、そ
れから悪いところは先手先手で今やっておりますでございます。

とにかく山の管理、これを怠ると今、荒廃した山ばかりでございますけれども、たまた
ま県でも今度森林税を取るようになりまして、里山も含めて今対応をだんだんにしてお
っていただけるわけでございますので、いずれはまたいいことになるのかなということと、
いずれまた対応できていくのかということと同時に、下條村民の皆さんも特に南の沢川、
あれも国できれいに河床整理もしていただきました。それに応えて、地域の村民の皆さん
が毎年河川の草刈りなんかをやっておって、美化に努めておっていただけるわけござい
ますし、その沿線にもまた観光施設、キャンプ場もできて、だんだんに安心した地域にい
きつつあるわけでございますけれども、くどいようでございますけれども、少しでも対応
を怠るとまたいつ何時どういう災害が来るのか分からないので、そんなことで気を付けて
いきたいと思っております。

観光事業への積極的な取り組みということで、いくつかご指摘いただきました。そのと
おりでございます。

村もなかなか数えてみると、ここにも書いてありますけれども、いろいろなことをやっ
ております。いろんな施設を今点と線に結びつけること、これを非常に重要に思っ

ております。

それと同時に、美しい村ということになると、今国道筋を中心に徹底して支障木なんかも切っておっていただきます。これがなかなか大変な事業でございます、まずご理解いただくことの大変さ。それからこの工事の大変さ、ぶんぶん通っておる中でやるわけでございます、非常に危険の伴う工事でございますけれども、このごろも1つあの学校の周辺に「小学校見えんじゃないか、雑木が多すぎるじゃないか」とか、それから中学校のこちらから行ったあの土手をなんとか有効に使いたいなと思っておるところへもって行って、どうしようもないヒノキ林があったわけでございますけれども、これも地権者の皆さんのご理解をいただいて、丸裸にいたしました。

よく皆さんは「自然保護だ、自然は大事だ」と言うんですけれども、自然と人間が共生するには、人間というのは100年たてば必ず死にますし、大体2m以下になれば成長は止まります。ところが木というのは、最初はバランスがとれておっても、40mも50mもこんなに太くなる場合もあるわけでございますけれども、それに手をつけることはいけないなんていう、その一時はナンセンスなお話もありました。あれは自然と人間の共生でなしに、自然が出過ぎておるということでございまして、ときにはああした治療をしていくということが非常にいいことかなということでございます。

これからも支障となるもの、明地原もそうございましたけれども、これは部落総出で切って切って切りまくりました。昼間なお暗いような道もきれいになりましたし、それから手塚原から上へ上がっていく、入野へ上がっていく道でございますけれども、これも本当に地権者の皆さんのご協力いただきまして、ほとんど丸裸にいたしてしまいました。

防災につきましては、これ一度建設省に非常に怒られたことがあるんですけれども、入野から上野原へ抜ける道でございますけれども、「今の旧道はあまりにもひどいじゃないか」ということで、今完成した道を開けるようにしたんですけれども、県からも「非常にこれは地質が悪いぞ」と「気を付けるよ」ということを言われたんですが、「絶対責任持つで」ということであそこに手をつけたら、なんと山が動き出したということでございまして、当時の建設省の局長が下條までわざわざ来てくれました。そして「とんでもないことをしてくれたな」ということでございますけれども、当時ボーリングの水抜きしたり、それから整地をしたり、それから土留めにしっかりした蛇籠なんかもだいが積みまして、

びっちり止まりました。そのけつに旧、昔の池上建設の裏のあの急傾斜地でございますけれども、あれにも1億くらいかけて、「怒りに来て陳情を受けたというのは初めてだ」と言っておりましたけれども、あそこらもきれいになって住める状態になっております。

今あの観光面でもということでございますけれども、これからはいつも言っておりますけれども、三遠南信、それから中央リニアエクスプレスという、この今までのありきたりのターゲットでなくて、もう少し広い視野。そしてネットワークはネットワークで今昼神温泉を中心に「あそこへ拠点を置け」と。それから各ネットワークを送って、それから昼神は公平公正な配置をしてそしてやろうじゃないかということで、今やっておるわけでございます。そうしたネットワークの中に、立派に組み込めるようなことを今それぞれ一生懸命やっておるんですけれども、点と点、線と線を結びながらまた構築していくつもりでございます。

それと同時に、歴史、風土の厚い村でございますけれども、なんといってもあの観光施設というのはなかなかない。私は、阿智村へ行って驚くんですけれども、どこへ行ってもこれはなんの東山道だとか、その誰が將軍様通った道だとか、腰掛けた石だとかいってあるんですけれども、下條村にもそういう名付けの優秀な方がおられるわけでございますので、史学会ともいろいろして、歴史は存続するものであると同時に、歴史は作られるものであるということで、決してそれ副作用が出るわけでないわけございまして、来た人が満足して「ああ、そうか」といって帰ればいいわけでございますので、あまりちゃちゃなものでなくて、そうした面にも一生懸命これから取り組んでいくということで、あまりにもその間口が広いわけでございますので、その程度の答弁とさせていただきます。

議長（村松 積） 3番、金田憲治君、再質問。3番、金田憲治君。

3番（金田 憲治） 確かに支障木だとかいろいろ取り払い、非常にスマートになってきたという感じは受けます。

それで新たなるその景観創造というようなことで、何かこう目標を作ってそれに向かって一人一人がその気持ちになって村一丸とってというような、これ非常に景観といっても難しい話で、何をやればいいのか、これはなかなか大変なことだと思います。

これは村民一人一人がその気にならないといけないというようなことで、個々でやっておるより1つ何か中心になるものを作って、そこへみんなが向かっていくというような方

向で、村の方でもイニシアチブをとっていただければ、非常にこういうふうにきれいになっていくのかなと、こういうようなものを考えるわけでございます。

その点について、そういうような研究会というんでしょうか、いろいろなところから何をやればいいのかというような、そういういろいろのご意見を聞く中でこういうふうにまとめていくというのはどんなものでしょうか。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 先ほど、下條氏の問題が出ました。あれはあのお寺様まで行く道、あれは相当改良したつもりでございます。

また今、若干脚光を浴びておるのがあの細野原の農園でございます。栗農園。それから観光農園としてやっておるわけでございますけれども、これも道路は整備し、またなおかつ今度もう少し整備したいということで、「材料支給してくれればやります」ということで、梅雨が済んだら取り組んでくれるということでやっております。

親水公園を含め展望公園、それから親田の極楽公園、いろいろあるんですけれども、これをさて、どういうふうに組み立てるか。前は、下條の銘木をやって1回お客を呼んだこともありますけれども、なんとかそのそれぞれの地域行って相談しても「これやれ」という言葉は出ないと思いますので、何か観光協会、商工会、それから観光公社等も呼ばって1回何か、史学会も含めて、それぞれのべくものをやらなければいけないときかなと思っておりますので、振興課長大丈夫か。

新進気鋭で今やる気になっておりますので、こちらでヒント与えてやれば相当やってくれるものと思いますし、村でも相当力を入れなければいけないと思っております。

皆さんもまた1つ大いに「なんとかしてみろ」というよりも「これやってみろ」って、もう一步踏み込んでくれると非常に反応がいいんですけれども、食堂行って「何かうまいもの食べせよ」というより「牛丼食べせよ」とか「鰻丼食べせよ」とか「マグロ丼食べせよ」と言った方が、食堂も楽だと思っておりますけれども。

そんなことでまた皆さんも。もうちょっとこの総論はよく分かるんですけれども、具体論で「俺はこう思う」というのをまた出していただければ幸いです。

議長（村松 積） 金田君いいですか。

では以上で、日程第3、一般質問を終わります。